



令和元年度 障害学生支援専門テーマ別セミナー 【建設的対話】

土橋恵美子

同志社大学 学生支援センター 障がい学生支援室
障がい学生支援チーフコーディネーター



今日のお話

1. はじめに 同志社大学について
2. 障害者差別解消法施行による制度変更
3. 建設的対話による支援の変化
4. 学生との関わりの中で「知る」新たな視点



同志社大学について

2019年5月現在

教学組織

- ・ 14学部16研究科

学生数

- ・ 学部生 26,686名
- ・ 大学院生 2,246名

教員数

- ・ 専任教員 787名
- ・ 嘱託講師 1,559名

2つの校地 京田辺校地:約9,000人 今出川校地:約20,000人

●同志社は1875年(明治8年)11月29日、新島襄により生徒8名、教員2名の英学校として京都の地に創立された。以来、キリスト教主義を徳育の基本とし、「教育あり、知識あり、品行ある」「一国の良心」ともいうべき人々の養成をめざして今日まで歩んでいる。



同志社大学における障がい学生支援

理念

1. 支援制度の基本方針

他の学生と等しい条件の下で 学生生活を送れるように支援

2. 支援制度の目的

“自律的成長” の場となり学内外の コミュニティーに還元



同志社大学のスタッフ配置

●コーディネーター

【今出川校地】

チーフコーディネーター	: 1名
コーディネーター	: 2名
補佐	: 4名

【京田辺校地】

チーフコーディネーター	: 1名 (聴覚障がい当事者)
コーディネーター	: 1名
補佐	: 3名

●サポートスタッフ

227名 (学生: 214名, 一般13名)





障害者差別解消法（2016年4月施行 2013年6月制定）

差別解消を進めるため2つの方策

1. 差別的取扱いの禁止

障害者に対して、正当な理由なく障害を理由として、障害者の権利利益を侵害してはならない

2. 合理的配慮の不提供の禁止

障害者から社会的障壁の除去を必要とする意思の表明があった場合、実施に伴う負担が過重でないときは、社会的障壁を除去するために合理的な配慮をしなければならない



正当な理由とは

(日本学生支援機構「一緒に考えよう！合理的配慮の提供とは」を参考に筆者作成
「一緒に考えよう！合理的配慮の提供とは」は「JASSO ウェブコラム」で検索)

合理的配慮の提供

影響

教育の本質

- ・ ディプロマ・ポリシー
- ・ カリキュラム・ポリシー
- ・ アドミッション・ポリシー

正当な理由



一方的じゃダメ

客観的・具体的説明

双方の建設的対話による相互理解

文部科学省対応指針



受験生



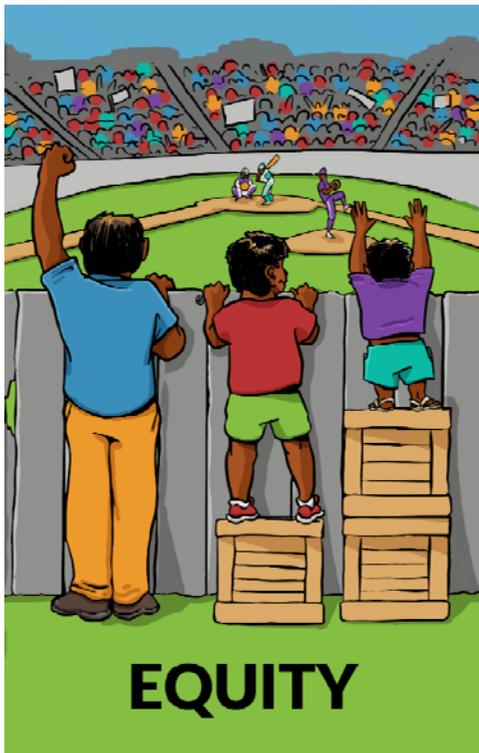
大学生

大学がカリキュラムの本質を変えない範囲で、合理的配慮を尽くし、教育目標に到達するための手段が、障がいによって行えない場合に、それ以外の手段で学ぶ方法（代替措置）について、どのように検討されたか



大学における合理的配慮

同じ機会へのアクセシビリティを確保



- 意思表示
- 負担が過重でない
- 本来の業務に付随
- 同等の機会の提供
- 本質的な変更には及ばない教育の質を維持
- 教育スケジュールの変更や調整は伴わない
- 双方の建設的対話による相互理解
- 根拠資料

Interaction Institute for Social Changeより転載

<https://interactioninstitute.org/illustrating-equality-vs-equity/>



法制化に伴う同志社大学の制度変更



相談

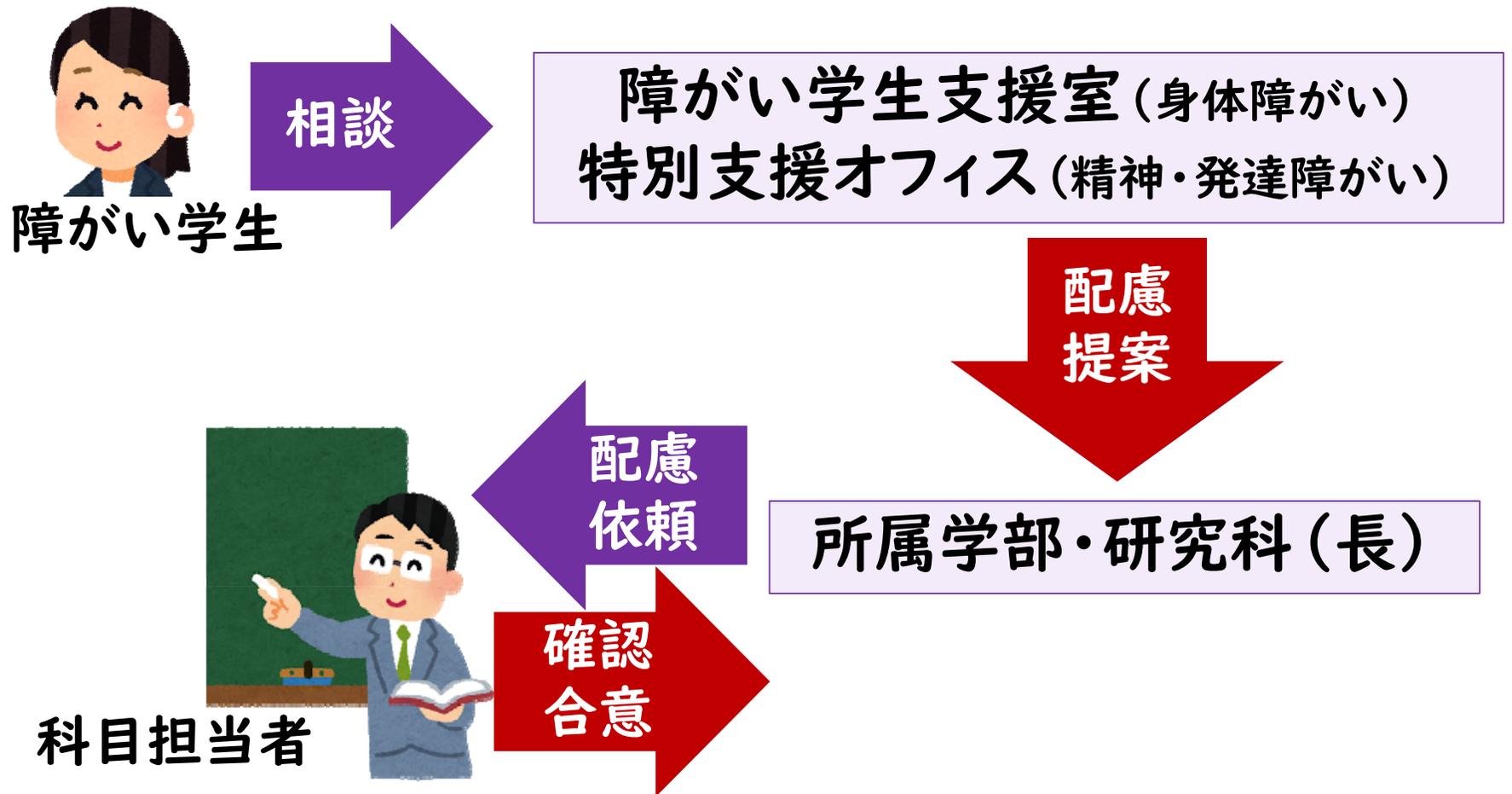
障がい学生支援室 (身体障がい)
特別支援オフィス (精神・発達障がい)

配慮
提案

所属学部・研究科 (長)



法制化に伴う同志社大学の制度変更





法制化に伴う同志社大学の制度変更





法制化に伴う同志社大学の制度変更



相談

障がい学生支援室 (身体障がい)
特別支援オフィス (精神・発達障がい)

同意を
得られず
合意できない

配慮
提案



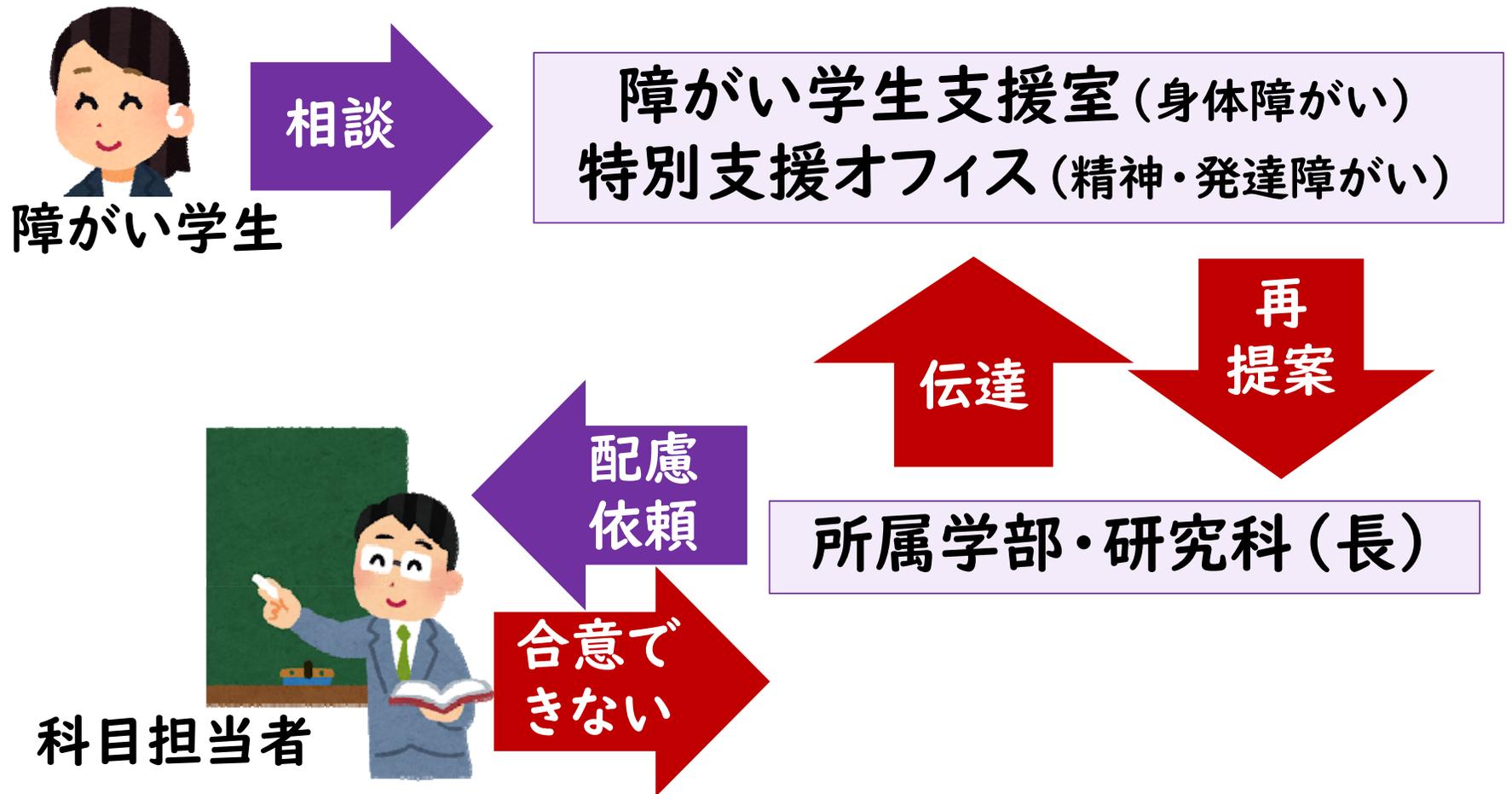
配慮
依頼

所属学部・研究科 (長)

合意で
きない



法制化に伴う同志社大学の制度変更





法制化に伴う同志社大学の制度変更



相談

障がい学生支援室 (身体障がい)
特別支援オフィス (精神・発達障がい)

合意されないまま1ヶ月が経過すると...



再提案

所属学部・研究科 (長)

伝達

再提案



法制化に伴う同志社大学の制度変更



相談

障がい学生支援室 (身体障がい)
特別支援オフィス (精神・発達障がい)

合意されないまま1ヶ月が経過すると…

障がい学生支援調整委員会設置

所属学部・研究科(長)

科目担当者





法制化に伴う同志社大学の制度変更

第三者委員会

同志社大学障がい学生支援調整委員会

委員会構成員（同志社大学障がい学生支援調整委員会に関する申合せ第3条）

- (1) 学生支援機構長
- (2) 法律を専門とする本学の専任教員1名
- (3) 社会福祉を専門とする本学の専任教員1名
- (4) 臨床心理を専門とする本学の専任教員1名
- (5) その他委員長が認めた者

障がい当事者と本学部課等との間で合理的配慮内容の合意が困難である場合、合理的配慮の提供の要否及び内容を審議し、決定する。（第5条）



「対話」から生まれる支援



- ・「こんにちは」と言われても自分に話しかけられているかわかりにくいんです
- ・点字を読むので指先の怪我には敏感なんです
- ・白杖が足元の道しるべになっているんです
- ・人が誘導してくれるととても安心なんです
- ・教科書も資料も全て読めないんです
- ・黒板に書かれている情報を知りたいんです
- ・パソコンは音声で聞いているんです



「対話」から生まれる支援

- 握力が弱いので書くことができないんです
- 鞆の荷物が出せないんです
- 食事は手の届く範囲にあれば食べれるんです
- 体勢が同じなのでストレッチしたいんです
- 授業前後はエレベーターが混んでいて2~3回見送ることがあるんです
- エレベーターのボタンは種類によって押すことができないんです
- 教室の端だと黒板が見えないんです





「対話」から生まれる支援



- 左耳は少し音がきこえるんです
- 大きな教室での授業はききとれないんです
- 後ろにいる人に声をかけられてもわからないんです
- マイクを通した声がききとりにくいんです
- 先生の口形をみて自分の点呼を確認しているんです
- 話が途中でわからなくなることが多いんです
- 書いてもらう情報がすべてだと思ってしまうんです



関わりから「知る」視点

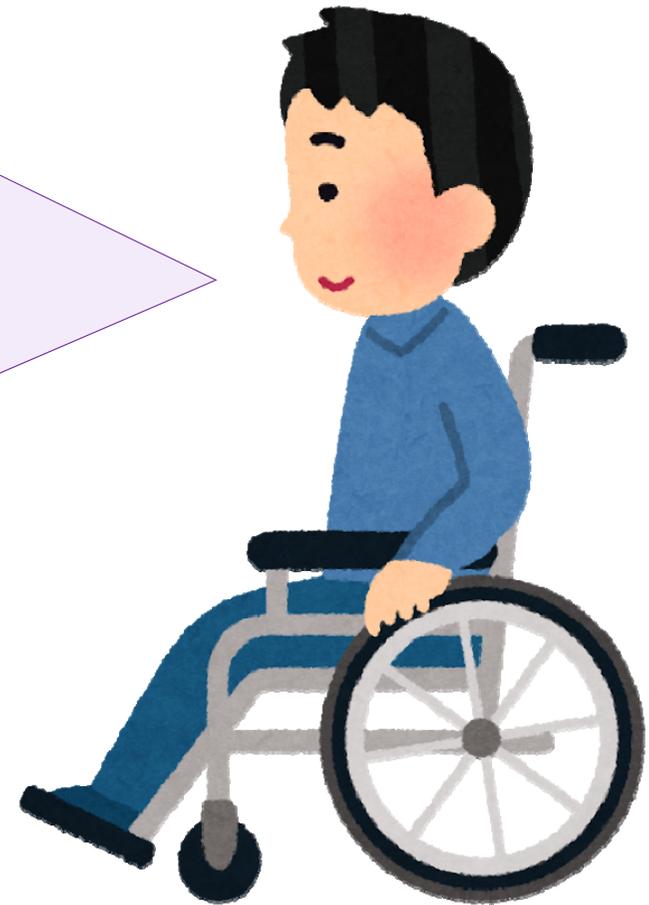


- 風やにおいて位置情報を確認しているんです
- 音の反射で空間や方向を確認しているんです
- 服のタグで表裏を判断しているんです
- 同じ色の同じ靴下をまとめてかうんです
- 家の中の物の位置や順番を決めてるんです
- 点字には漢字がないんです
- 白杖が踏まれたりはさまって折れることがあるんです



関わりから「知る」視点

- ・朝は筋肉が硬直していて起き上がるまでに時間がかかるんです
- ・尿意がわからないのでトイレに時間がかかるんです
- ・ヘルパーさんの調整を自分でしなければなりません
- ・ノンステップバスでないと乗れないんです
- ・電車に乗る前に駅員さんに伝えると渡し板をスロープを準備してくれるんです
- ・エレベーターのない駅へは行けないんです





関わりから「知る」視点



- ・自転車のベルの音がきこえないのでよくぶつかられるんです
- ・わからないまま「うんうん」とわかったふりをするのがよくあるんです
- ・食事会や飲み会は孤立するので嫌なんです
- ・声に自信がなくて声を出すことが恥ずかしいんです
- ・読み方がわからない熟語がときどきあるんです
- ・自分が出している音がわからないんです



ご清聴ありがとうございました

参考文献

- 日本学生支援機構, 合理的配慮ハンドブック, JASSO (2018)



同志社大学学生支援センター
障がい学生支援室

(今出川) ji-care@mail.doshisha.ac.jp

(京田辺) jt-care@mail.doshisha.ac.jp

<https://challenged.doshisha.ac.jp/#>